

## 花草木

### 【ノースポール】

ノースポール学名：Leucanthemum paludosum (Chrysanthemum paludosum) 和名：ノースポールギク  
ノースポールは、径3cmほど中心が黄色の白いキク科の一年草です。花期が長く育てやすいことで人気の一年草です。

比較的寒さに強く、関東地方以西の平地では秋にタネをまけば、防寒しなくても冬越しでき、冬から初夏まで花を楽しむことができます。株はポール状に育って、最盛期には株一面に花を咲かせます。

ノースポールの花言葉は「誠実」「高潔」「冬の足音」「輪廻転生」



滋賀県内の平地で咲いていたノースポールの花

### 我が署のスタッフ

### 滋賀森林管理署

幸前 克昌 (こうぜん かつまさ) (令和5年度採用)

#### 【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループ係員として、工事の設計・物品管理・様々な手続きの事務など、幅広く仕事に取り組んでおります。採用2年目に差し掛かり、徐々に仕事にも慣れてきましたので、自分のできることを精一杯こなし、グループ全体で今年度の治山・林道事業をこなせればと思います。

#### 【職場の雰囲気は？】

職場は話しやすい環境で、疑問を投げかけても必ず返してくれますので安心しております。一人一人が人を思いやれる方が多く、気持ちよく仕事できております。また、若手職員は新しい知識を得る機会が多く、積極的に研修に参加しているので新しい挑戦がしやすい職場でもあります。

#### 【林野庁の魅力は？】

デスクワークだけでなくフィールドワークがある点が良いところだと思います。仕事において、パソコンと向かい合って仕事するだけではなく、山と向かい合って仕事しますので自然や体を動かすことが好きな方にはぴったりの仕事だと実感しております。



崩壊地（事業地）の確認中

## 森林事務所紹介

### 日原森林事務所 ( 島根森林管理署 )

地域統括森林官 赤木 直樹 (あかぎ なおき)

日原森林事務所は島根県西部の鹿足郡津和野町に所在しています。国有林のほとんどは、ダムの無い一級河川として知られる清流高津川の源流域となっています。

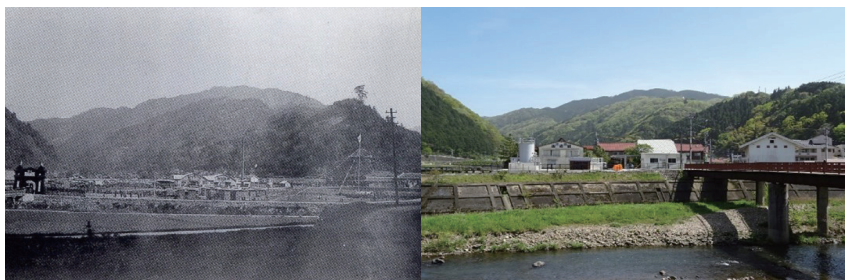
地域と森林管理署の係わりは古く、森林事務所周辺の写真が残されているので幾つかご紹介します。

明治 43 年、日原小林区署庁舎竣工式の様子です。近在の首長はじめ来賓列席の記念写真です。現在の森林事務所の近くに大きな庁舎がありました。



日原小林区署庁舎竣工式 (明治 43 年)

同じく明治 43 年、日原製材所の写真です。当時の官有製材工場は秋田と九州の人吉、中国地方ではここだけの大規模製材工場でした。



日原製材所 (明治 43 年と現在の様子)

背景の山の稜線は今も昔と変わらない風景となっています。

また、この地域はケヤキの一大産地として有名で、伐採された原木はトラックで駅まで運び出され、現在の J R 山口線日原駅の近くにあった日原営林署専用のプラット

ホームから列車で関西方面へ出荷されていたとのこと。残された写真でしか振り返ることの出来ないものばかりですが、山には先人たちが設置した境界標\*をみることができます。



トラックで運搬されるケヤキ原木

古い境界標は天然の岩石に境界を表す文字・数字を刻字したものもあり、立会の際に驚かれることもあります。

先人たちが測量し埋設した国有林の境界を今後も適切に管理してまいります。



天然岩石の境界標



日原営林署専用のプラットホーム

※境界標：国有林と民地の境界を明示するために設置した標識のことで、文中の天然の岩を利用したもの他、コンクリート標識等いろいろな種類があります。国有林ではこれらの境界標により境界の管理を行っています。

# シリーズ『国有林 最前線！』

## シカ防護柵の課題と対策について

### 兵庫森林管理署

兵庫県内の木材生産に適した国有林の多くが県北西部の多雪地域に所在しています。これら地域はシカの生息密度が高く、再造林では防護柵を用いた被害対策が重要です。しかしながら、積雪のため冬季から春先にかけて防護柵の補修を行うことができず、次世代の森林を更新するうえで大変困難な状況にあります。

多雪地域では、特に次の課題に対処する必要があります。

- ①積雪や劣化でネットの上張りロープが切損や伸長し、ネットが弛むこと。
- ②急傾斜地や谷地形では積雪等の移動により防護柵支柱が折損・転倒すること。

令和4年度に前述の課題克服を目的に、防護柵の強度を向上させる試行を行いました。

これまで上張りロープにはポリエチレン製の太さ8mmのロープを使用していましたが、これを太さ4mmのワイヤーに変更。支柱にはスーパーライトポールに替えて引っ張り強度が約2.3倍の鋼管を用いました。

一冬を越え確認したところ、上張りワイヤーの切損や伸長、支柱の折損や転倒はなく、谷地形箇所でも1本傾斜したのみで、高い強度が証明されました。



鋼管とワイヤーの組合わせ

試行地でのコスト試算では、防護柵の強度を生かしネット高の確保が容易な場所では、支柱間の間隔を従来型の約2倍の距離で施工したこともあり、支柱本数が減少し運搬重量は22%軽減、従来型の施工費と比較して10%のコスト低減となりました。

引き続き低コストで積雪に強い防護柵の仕様を目指して取り組みを行ってまいります。



ネット継ぎ目と施工状況



テンション機材と施工状況